

春子生産上の留意点 ()

1 はじめに

県内は4月下旬にようやく暖くなり、春子の発生・生長が進み、大部分の地域で4月末から5月始めに収穫の最盛期となりました。県北沿岸部はこれから採取ピークに入るものと予想されます。

これからは、気温が次第に上昇し、降雨日も多くなると思われますので、春子生産に当たっては、ほだ場巡回をこまめに行い、適期採取に努めてください。

2 ほだ場の巡回と採取

(1) しいたけは、気温が上昇すると開傘が進みます。傘の縁に巻き込みがあるものは、無いものよりも価格が高くなります。このことから、気温が高い日にはほだ場の巡回回数を増やして、巻き込みがあるうちに採取・乾燥してください。

(2) 気温が上昇すると開傘ばかりでなく、降雨直後や湿度が高い地際部などではナメクジによる食害も発生します。ナメクジ被害や降雨による品質低下、燃料の損失等を防ぐ点から、降雨が予想される場合には、雨子にして乾燥に手間取るより、少し早くても収穫した方が無難です。

(3) 雨に当たったしいたけは、雨が止んでから防風ネット等を捲り上げてほだ場内に風を入れ、少しでも乾かしてから収穫してください。

(4) 小人数で採取作業に手が回らない場合には、形の良いものや水分の少ないものを先に選んで採取してください。良いものも悪いものも全て採取すると、時間を費やすばかりでなく、燃料等の消費が多くなり損失が増えます。

(5) スライスを生産する場合、切り口に細かい虫食い跡の孔が見られることがあります。特にこれからは気温が高くなり虫の活動も活発になるため、作業に当たっては切り口を確認してください。

3 これからの生産のポイント

(1) これからは、乾燥した天候が次第に少なくなり気温が急激に高くなりやすくなることから、きのこの生長が早くなり、傘が開いてバレやすくなります。採取回数を日1回から数回に増やし、適期採取を行ってください。

(2) 採取時は、ナメクジの食害を受けていることがあるため、傘の部分が食害されていないか確認してください。

(3) スライスした切り口は、エビラに広げる時までには虫食いの有無を確認して、発見した場合には出荷用の製品と混じらないようにしてください。

(4) 乾燥したシイタケを戻した場合に、稀に付着していたナメクジも戻ることがあります。選別時に黒い粒などが付着していないか確認してください。

4 現在の市況

九州の作柄を見ると、良いどんこが少ないようです。本県では軽い、明るい、丸いどんこが人気となる可能性があります。スライスは、品質の良いものが高値ですので、断面が白くかつ広いものを生産するよう心がけてください。

5 主要生産県の状況

大分県や宮崎県では、昨年比約90%と言われており、平年作からやや不作の様様です。

静岡県では、平年作からやや豊作の様子で、どんこ系も多く品質が良い状況とのことでした。

なお、本県以外の生産地では、春子の収穫はほぼ終了した模様です。

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文 専門技術員 伊東茂敏)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 TEL 019-698-1337
岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>